

新春 茂山狂言会

古典芸能で初笑い

1月8日 津山文化センター

津山文化振興財団が主催する市民芸術劇場の100回記念として開催された新春狂言会を約330人の観客が楽しみました。

狂言は室町時代に「能」とともに発展した古典喜劇。演目「末広がり」では、主人に末広がり(扇)を買ってくるよう言われた男が、詐欺師に騙されて傘を買わされる様子を滑稽なやり取りで演じ、会場から笑いと拍手が起こっていました。

「新年から笑って元気がもたらされた」と話す来場者もいて、初笑いに満足したようでした。



津山消防出初式

防災と安心を誓う

1月8日 吉井川河川敷

市内8方面隊39分団員や消防組合職員など約1,100人が参加して、津山消防出初式が行われました。昨年発生した東日本大震災を受けて、地域消防が果たすべき役割の重要性を参加者全員が、改めて深く胸に刻み込む、式典となりました。

式典後、ポンプ車両104台による一斉放水では、赤、青、黄など色鮮やかな水が放水されました。日差しが水しぶきに反射して、小さな虹が浮かび上がり、訪れた人は拍手をして見物していました。

とんど焼き

願いの炎、天まで届け

1月14日 領家地内

この日、市内各地で行われたとんど焼き。領家地区では竹で約6mの大きな櫓を組み、持ち寄った正月飾りや書き初めなどを燃し、1年の無病息災と筆の上達を願いました。とんどの火で焼いた餅を食べると、1年を健康に過ごせるといわれ、餅を竹の先に付けて上手に焼き、食べていました。

また、灰になった注連縄の形を崩さないよう、家に持ち帰ろうとする人や灰をおでこに付け合うほほ笑ましい姿が見られました。



お餅つきととんど焼き

お歌に合わせてぺったんこ

1月12、13日 一宮保育所(一宮)

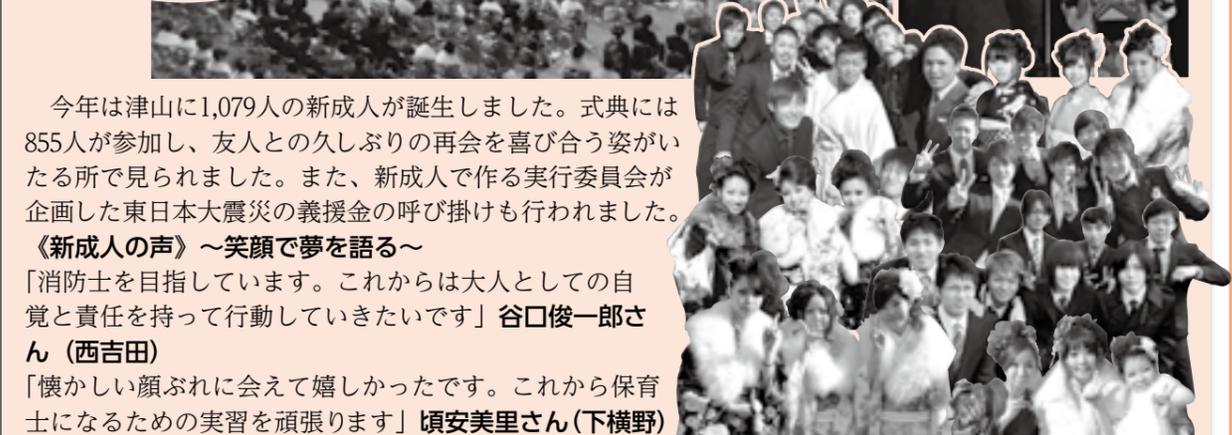
日本の伝統行事に触れながら、地域のお年寄りと交流しようといわれたお餅つきととんど焼き。お餅つきでは年長・年中児62人が西田辺老人クラブ「ときわ会」の皆さんとふれあいました。

園児はお年寄りと一緒にきねを持ち、歌と手拍子に合わせてリズム良く餅をついていきました。「ほら、上手にできたよ」、「お餅が固くなってきた」などと話しながら、餅を手のひらで丸めていました。ついた餅は翌日行われたとんどで、しょうゆや黄な粉につけておいしく食べました。

第62回津山市成人を祝う会

人生の新たな門出を喜ぶ

1月8日 津山総合体育館



今年津山に1,079人の新成人が誕生しました。式典には855人が参加し、友人との久しぶりの再会を喜び合う姿が見られた。また、新成人で作る実行委員会が企画した東日本大震災の義援金の呼び掛けも行われました。

《新成人の声》～笑顔で夢を語る～

「消防士を目指しています。これからは大人としての自覚と責任を持って行動していきたいです」**谷口俊一郎さん(西吉田)**

「懐かしい顔ぶれに会えて嬉しかったです。これから保育士になるための実習を頑張ります」**頃安美里さん(下横野)**



第37回元旦走り初め大会

マラソンで新年をスタート

1月1日 津山総合体育館

市内外から参加した302人のランナーが新春の津山路を駆け抜けました。コースは2kmと4kmが用意され、自分に合った距離をそれぞれのペースで走り、さわやかな汗を流しました。ゴールしたランナーにはぜんざいが振る舞われ、笑顔でほお張る姿には心身共に温まった様子が伺えました。

親子で4kmコースに参加した**近藤龍星さん(高野小5年生)**は「この大会には初めて参加しました。1度も休まずに完走できてうれしかったです」と目を輝かせながら話してくれました。



岩屋山で初日の出を楽しむ会

史跡で新年を祝う

1月1日 岩屋山(中北上)

県指定史跡の中世山城「岩屋城跡」で初日の出を拝もうと約50人が山頂の馬場跡休憩所に集まりました。この日はあいにくの曇り空でしたが、次第に白んでくる東の空を眺め、ご来光が昇る予定時刻に合わせて、参加者全員で「ばんざい!」と新年を祝いました。

美咲町から参加した**岡本章さん**は「以前から参加したくて、やっと念願がかないました。登っている時は苦しいところもありましたが、参加者も多くて楽しかったです」と息を白くしながら話してくれました。